

岡村考二 第10回 クリスマス・フルートコンサート

2004.12/13 (月) 神奈川・フィリアホール

ピアノ：長谷川由美子

シューベルト：アヴェ・マリア、グルック：精霊の踊り、エルガー：愛の挨拶 Op.12、ドビュッシー：亜麻色の髪の乙女、ドビュッシー：月の光、クリスマス・メドレー、ゴッペル：ソナタ 第2番、ドップラー：ハンガリー田園幻想曲 Op.26



毎年恒例となっている岡村考二氏のクリスマスコンサートが2004年12月13日に開催された。岡村氏は横浜を中心にコンサートやフルートの指導を行っており、ファンも多く、会場は曲が進むにつれてほぼ満席に近い状態となった。

プログラムも誰もが聴きやすく馴染みやすいもので構成されており、曲間では氏自身が曲の説明を行なった。プログラムには曲目解説を掲載している演奏会が多いがそれには掲載せず、敢

えてステージの上で聴衆に語りかけることで、岡村氏と聴衆が一体になるような感じであった。毎年のこのコンサートを楽しみにしている聴衆が多く見受けられるのは、奏者と聴衆との垣根のないコンサート作り、そして氏の人徳によるところが大きいのではないだろうか。

1曲目から氏の豊かな響きが心地よく、ホールを包み込んでいく。何かの折りに耳にすることは多くても、じっくりと演奏を聴く機会の少ない名曲たちが、岡村氏のフルートによって、生き生きと奏されていく。

特に印象に残ったのは、ゴッペルの「ソナタ 第2番」とドップラーの「ハンガリー田園幻想曲」の2曲。フランスのエスプリ香るゴッペルでは煌びやかな音色、どこかしら懐かしさを感じさせるドップラーでは重厚感のある響き、と全く違う音色が要求されるこの曲を、対比づけるように見事に吹き分けていた。

編集部